

# ヒューマンライブラリー@立川 ブックリストの紹介

本のタイトル	あらすじ
高校卒業後から社会復帰するまで	高校卒業後から約5年間、引きこもり・ニートの期間がありました。その期間で私が思っていたことなどをお話させていただければと思います。
鳥は空へ 魚は海へ 人間は社会へ ～重度障害者として地域で生きる～	突然の病で全盲・四肢の麻痺による車いす生活になる。施設の生活に疑問を感じ、地域で生きる決意をする。介護保障の運動をしながら、結婚・出産・子育ての経験を経て、孫2人の「おばあちゃん」となる！
家族を育む	ステップファミリー(子連れ再婚)、養育家庭(里親)、特別養子縁組家庭など、家族の形は「血縁」だけではありません。夫婦も非血縁。夫婦が家族になるように、非血縁の親子も家族になれます。また、ファミリーサポートやショートステイなど、「親族」ではない人たちに支えられる子育てもあります。「家族を育む」ことについて、ゆっくり綴っています。
僕は生まれつき、まぶたが開かない病気	母と同じく、左まぶたが開かない形成異常で生まれ、手術をしない生き方を青春時代を選びました。患者会のNPO法人を2008年に立ち上げ、今では1人ではない「まぶたの人生」を歩む、40歳ひつじ年生まれ。
ホームレスがなんだ、自分を持てば未来はある	生まれ育った環境、母親の世話、ホームレスの体験、さんきゅうハウスとの出会い。今の自分を見てくれ。
聴覚障害のある親を持つ聞こえる子ども(CODA)の揺れる感情	聞こえない親が大嫌い。親には感謝しているけど、通訳は面倒。CODAだからと言って手話ができるわけではない。親は守る存在、だけどいい子じゃない。賞賛の対象でもない。“聴覚障害の世界”と“聞こえる社会”との狭間を歩む、私と私たちの物語です。
たかが髪の毛?されど髪の毛? ～髪をなくした女性(わたし)のはげしい人生～	重度の円形脱毛症で髪を失った女性漫画家。確実な治療法はなく、悲しみと不安のどん底に。カツラ生活の窮屈さや、カミングアウトできない孤独感に苛まれる毎日でもあった。だが、悩みの先に私が目指したものは、完治ではなく「人と違う見た目を楽しんでみよう」という試みだった。「ハゲ100人で踊るプロジェクト」立ち上げ。
障害か性格か - 私の選択	小さい頃から“おっちょこちょい”で“好きなことにはとても集中する”子としてかわいがられた私。働き始めると「どうしてこんなこともできないの?」とか、「勝手に判断しないで」、「そのくらい自分で考えて」と怒られる日々。なぜ?病院、薬局、市役所、支援機関、会社、大学・・・立川市民として、それぞれの場でどのように人と関わり生活をしているか、一例をお話します。
[コミュ障]から[クリエイター]へ ～不自由から知る自由～	幼い頃から言葉をうまく使えず人間関係での問題を抱え続けてきました。それについては年月をかけて克服できましたが、むしろ他人より自分自身との関わりを深められたことで独創的な才能を培えたのは大きな財産です。一方で排泄障害もあり、おむつをしているので行動範囲が制限されることもありますが、[広大な創造世界]と[進化し続ける自分]を堪能しています。
バイク事故で人生が変わった息子	23年前、息子が25歳のとき、バイクの事故により重い障害が残りました。就労はできないので、今は福祉作業所というところに通っています。ヘルパーさんと家族の支援でアパートでの生活ができています。障害は複雑ですが、息子は明るく元気で前向きに頑張っています。「高次脳機能障害」という堅苦しい障害名です。

ひとりで育てるということ	10年以上、いろいろなひとり親と関わり、自分の子育て・みんなの子育てを体感してきました。「ひとりで子どもを育てるということ」とはどういうことか。ぜひ、話を聞いてください。
中途失明ライフ	中途失明で全盲になった私。日々の生活や子育てに奮闘しながらも、前向きに、明るくおもしろく生きてきました。「障害があっても楽しく暮らしたい」そんな半生を、ぜひ聞いてください。
“障害現役”	46年前、9階から1階までの転落事故。九死に一生を得ましたが、体は全身打撲で足と背骨は複雑骨折。担当医の必死の治療により、命を救われました。その後の波瀾万丈の人生をお伝えさせていただきます。障害の人生、“障害現役”の精神で残された人生を感謝し生き抜いていきます。
性同一性障害の当事者として生きる	最近マスコミで「LGBT(性的マイノリティ)」について報道されることが多くなりましたが、その当事者の苦悩を知る人は多くありません。当事者の一人として、その実態を多くの方に知っていただけたら嬉しく思います。
自分らしく生きるために ～依存症と共に～	13歳、思春期の頃に摂食障害による過食嘔吐が始まり、成人式を過ぎて20歳の頃からアルコール依存症になりました。今まで生きてきた年数の4分の3以上の年数を依存症という不可解なものに苦しめられ、自分自身の周囲の人さえも振り回し、苦しめてきました。2年前に入会した断酒会。そこに辿り着くまでの生き方と辿り着いてからの生き方。依存症を理解したいと思う方、また、当事者で苦しみの中にある方。私の話を聞いてください。
薬物依存から抜け出す	自分は大丈夫だ！と思いこみ、10年間薬物から抜け出すことができませんでした。家庭や生活は乱れる一方。そのために病院へ9か月入院し、徹底的に治療しました。退職後は就職など苦難の連続でしたが、周りの支えで人生をやり直そうと決意できました。依存症は未だ完治していません。継続的にやめ続けているだけです。
 このマークを見かけたこと、ありませんか？	 このマークは「オストメイト」を表しています。オストメイトは、病気や事故が原因で、健康な皆さんとは排泄方法に違いがあります。排泄という、人としての尊厳性に関わる障害のため、辛い思いと不安を抱え、生活している仲間がたくさんいます。誰もがなり得る、オストメイトのことを知ってもらいたいです。
いろいろな人たちに助けられた子育て	知的障害のある息子のお友だちやママ友、地域のいろいろな人たちに見守られ、たくさん助けてもらった子育ての体験をお話します。
車いすでオーストラリアに留学したJK	生まれつき車いすで生活している女子高生が、憧れのオーストラリアに留学できた理由とは・・・？続きは当日のお楽しみ！
視力矯正の不具合を抱えているため、やりたいことが十分にやれずに悩んでいる当事者	視力矯正の不具合を抱えている現状の苦しさを伝えながら、性に関する障害、側弯症、引きこもり、それぞれの当事者でありつつ、それらの不具合や障害を抱えた一人の個人として、自分の境遇や問題意識を伝えたいと思います。
愛着障害で生きてゆく	30年以上、人間恐怖による「うつ」と「引きこもり」に苦しんできました。1年かけて検証し、心底納得し、安心しました。できないことをやろうとしていたことに気づきました。今、愛着障害の芽(人間恐怖)は、一生消えない心の傷として残ると実感しています。こんな自分が人間社会を生き抜いていく方法をお話したいと思います。